

1月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城 武夫

今月のテーマ

薬の飲ませ方・タイミングや時間など

はじめに

こどもの救急・急病・慢性疾患に対して診断、処置は重要ですが、治療の一環としてのお薬の服用も大切です。しかし、こどもに薬を飲ませるのは結構大変なことです。薬には苦みや独特の匂いがありますし、普段は口にすることのない口当たり（感触）があり、こどもには服薬の理由を理解ができませんので、たいていのこどもは嫌がります。

飲ませ方

水薬は必要量を小分けして、コップやスポイドか注射器（正確さが要求される場合はお医者さんにご無理を言って下さい）で与えましょう。上手く飲めたら好物の飲み物、食べ物で口の中の苦味、違和感を忘れさせましょう。（主治医、薬剤師に好物の飲み物、食べ物を与えてよいか相談をしておきましょう。）

散薬はそのままか、少量のお水で練って上顎や頬の内側に付け、飲み物をご褒美に与えて下さい。また、アイスクリーム、お薬ゼリーなどに素早く混ぜて与えましょう。（こどもの薬には苦味をカバーするために甘味成分や、フレーバーがコーティングしてありますので素早く混ぜて下さい。薬の袋は耐水性があり、漏れないので容器を使うより便利です。）

錠剤、カプセルはそのまま飲めない場合は薬剤師さんに潰していただくか、はずして散薬状態にしてもらおうとよいでしょう。

座薬はオリーブオイルや水で滑りやすくして、肛門に少し指先が入るまでいれましょう。私は水でじゅうぶんですのでお勧めします。



絶対に飲まない子の対策



➤ままごと遊びでお医者さんごっこ、薬剤師さん、看護婦さんごっこを親子で普段からして、慣れておきましょう。

➤薬を親子で作りましょう。せんべいやビスケット、ラムネ菓子、飴玉をすり鉢でつぶして偽薬にしましょう。このような偽薬を母親やお人形さんに飲ませることで慣れさせましょう。上手くできたら褒めましょう。

いつ飲ませるか？

成人のように食後 30 分は原則で、こどもの場合はお腹がふくれるとのみません。食前でいいでしょう。また、毎食後にとらわれず、一日 3 回なら 5~6 時間毎でもよいでしょう。成人のように胃腸障害はごく稀です。

一回量を間違ったり、2 回分、3 回分を飲んだ場合は主治医か薬剤師さんに相談しましょう。